

学校の先生方へ 農泊で、未来を育む

学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に、農泊は大きな役割を果たします。

◆ 探究心を育む

農山漁村での体験を通して、自然や地域の文化について深く探究することができます。
例えば、なぜこの地域でこの作物が生産されているのか、なぜこの料理がつけられているのかなど、様々な疑問や気づきがあるでしょう。

◆ 多様な価値観に触れる

異なる世代、異なる背景を持つ地域の人々との交流を通して、多様な価値観に触れることができます。
自分とは異なる考え方に触れることで、広い視野と柔軟な思考を養います。

◆ 協働性を育む

農作業や共同生活などを通して、仲間と協力し、目標を達成する経験を積みます。

◆ コミュニケーション能力を向上させる

地域の人々とのコミュニケーションを通して、言葉遣いや伝え方、聞き方など、コミュニケーション能力を向上させます。

◆ 問題解決能力を養う

農業には、天候や病害虫など、様々な課題が付きものです。それらの課題を解決するためには、観察力、分析力、そして創造力が必要となります。

◆ 持続可能な社会への理解を深める

農業を通して、食料生産の大切さや環境問題について学び、持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え、行動する力を養います。

農泊は、教科書だけでは学ぶことのできない、生きた学びの場です。
子どもたちの成長をサポートするため、ぜひ農泊体験をご検討ください。

体験者の声



生徒

家族の中でも、一人一人役割を持って生活することが大切なのだと感じました。
家庭の中で自分が今何をすべきなのかを考えられるようになりました。

いつも何も考えずに食べていた食べ物も、
その裏に農家の方の努力を考えると
良い機会でした。



教員

学校で3年間共に過ごしても、先生との別れを惜しんで涙をする生徒は少ないのに、
たった1日過ごしただけで涙を流して別れを惜しむなんてすごいパワーですね。

机上の学習よりも、実際にホンモノと出会う
ことから学ぶことが、生徒の成長に繋がると
痛感しました。



受入地域側

不登校気味だった生徒が「来てよかった」と
民家さんへ感謝を伝えていました。

巡回中の話、「あなた達、ここのお家の子
ですか?!」と思わず先生が口にしたほど、
民家さんと打ち解けた生徒達の様子に
感動されていました。

学校では見ることができない
生徒の表情や一面を知ることが出来たと
感激される先生も多いです。

公益財団法人日本修学旅行協会 月刊「教育旅行」より

農泊に関するポータルサイト(一般旅行者向け)の紹介

- 国内向け農泊PRサイト「農泊ポータルサイト」<https://nohaku.net>
- 海外向け農泊PRサイト「Countryside Stays Japan」<https://countrysidestays-japan.com/>

農泊で育む、生きる力



農山漁村で
宿泊・体験・交流を

農泊で広がる学びの世界

今、子どもたちを取り巻く社会は大きく変化しています。AIの発展やグローバル化など、予測不能な時代を生き抜くために必要なのは、自ら考え、学び、そして行動する力です。

農泊体験は、そんな「生きる力」を育む、最高の学びの場となります。

学習指導要領が目指す、探究心、多様性への理解、そして協働性を育む上で、
農泊は大きな役割を果たします。

農泊とは?

農泊とは農山漁村に宿泊して、その地域ならではの食事や体験などを楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。
農作業や、地域の文化体験、地域住民との交流など、その土地の暮らしや文化を知ることができるのが、農泊の魅力です。
農家民宿などでホームステイのような宿泊体験や地域の旅館などに泊まるなど様々な宿泊スタイルがあります。

このパンフレットは、令和6年度農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション対策 農泊推進型)のうち
広域ネットワーク推進事業「農泊地域の販路拡大に向けた旅行事業者等とのネットワーク構築促進事業」を活用して作成しています

なぜ今、農泊が注目されているのか？ 農泊が持つ、新たな可能性

1 デジタル化が加速する社会で、リアルな体験は心と体を育む

コロナ禍で加速したデジタル化は、私たちの生活を便利にした一方で、人間関係の希薄化や心の孤立を招いています。対面でのコミュニケーションやリアルな体験の重要性が再認識され、自然の中で過ごす時間や人と直接触れ合う機会を求める人が増えています。



2 核家族化が進む社会で、多様な価値観に触れる

核家族化が進み、地域コミュニティが希薄化する中で、子どもたちは多様な価値観に触れる機会が減っています。農泊では、地域の人々と共に暮らし、食卓を囲み、様々な作業を手伝うことで、温かい人間関係を築くことができます。異なる年齢の地域の人々との触れ合いを通して、多様な価値観に触れ、思いやりの心や協調性を育みます。

3 体験を通じて、命の大切さ・食の大切さを学ぶ

農泊では、種をまき、苗を育て、収穫し、調理する、といった一連の生産過程を体験できます。食の大切さを学び、命の尊さを実感することで、食に対する感謝の気持ちや、食料問題への関心を深めます。また、食を通して地域の文化と伝統を学び、地産地消の大切さを知るきっかけとなります。



4 AIが発展する社会で、人間ならではの力を育む

AIの発展により、人間の仕事は大きく変化しています。農泊では、自然の中で様々な体験をすることで、AIにはできない、創造性やコミュニケーション能力、問題解決能力といった人間ならではの力を育むことができます。

5 持続可能な社会への関心の高まり

農泊は、地域の人々との交流を通して、地域が抱える課題を学び、解決策を考えるきっかけとなります。また、自然の中で過ごすことで、環境問題への関心を深め、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成します。

農泊が持つ新たな可能性

農泊は、単なる見学旅行ではなく、多様な価値を提供する新しい形の体験です。

多様な学びの機会



- 探究心の育成** …… 農泊は、教科書だけでは学べない体験を通して、子どもたちの探究心を刺激し、自ら課題を見つけ、解決する力を養います。
- 社会性と協調性の育成** …… 異なる年齢や背景を持つ人々との共同生活を通じて、協調性やコミュニケーション能力、社会性を身につけることができます。
- 多様な価値観への理解** …… 異なる地域の人々との交流を通して、多様な価値観に触れ、グローバルな視点を持つ人材を育成します。

学校の課題解決

- 学習指導要領への対応** …… 農泊は、学習指導要領が求める探究心、多様性への理解、協働性を育むための最適な体験学習です。
- 費用対効果の高い教育旅行** …… ホテルや旅館を利用する従来の教育旅行と比較して、費用対効果が高く、多様な体験を提供できます。
- 混雑の回避** …… 人混みを避け、自然豊かな環境で安心して体験学習を行うことができます。

社会課題の解決

- 地域活性化の核となる** …… 農泊は、地域経済の多角化を促進し、地域住民の交流を深め、地域全体の活性化に貢献します。
- 持続可能な地域社会の実現** …… 次世代を担う子どもたちに地域への愛着を育み、地域課題の解決に積極的に関わる人材を育成することで、持続可能な地域社会の実現に貢献します。



農泊が叶える、子どもたちの成長 農泊は生きる力を育む

事例 そらの郷山里物語(ほんもの田舎暮らし体験) PBL×STEAMプログラム

ESD人材育成を図る『PBL(課題解決型学習)×STEAMプログラム』は、本物の暮らし、コミュニティの中で、地域住民と共にプロジェクトを展開させるもの。STEAM教育の手法で、個々の能力を引き出し、様々な実践体験から、あらたな課題・複数の答えを模索します。

	1日目	2日目
AM	集落フィールドワーク、講演学習	家業体験
PM	家業体験	離村式
泊	民泊	

Produce by 一般社団法人そらの郷

所在 徳島県三好市池田町シマ 995 番地 1
連絡 旅行業登録番号 徳島県知事登録旅行業第 2-148 号

1. 事前学習

■ 出前授業 (60-120分)

- ・にし阿波の暮らしについて
- ・そらの郷の取組について
- ・にし阿波の課題について
- ・PBLテーマ設定



■ 地元高校生とのTV会議

① 急速な少子高齢化、人口減少による担い手不足

- ・傾斜地伝統農法の技術継承
- ・山間部の植物多様性の保全
- ・集落のローカルコミュニティ保全

② 将来の不確実性からくる、住民のネガティブ思考

- ・自身の子どもが、田舎を離れ、都内で成功することを願う
- ・止められない人口減少と産業衰退
- ・豊かな暮らし、地域の魅力創出が進まない

③ 秘境と言われる所以、交通の不便

- ・山々と深谷で分断された集落形成のため、大型バスの侵入が困難

④ 動植物多様な地域であるため、虫が多い

- ・イノシシ、シカ、猿などに農地が年中被害を受けている

PBLテーマ例

2. 民泊・家業体験

- ・家庭ルール説明
- ・夕食づくり体験 ※共同調理
- ・夕食 ・団らん
- ・民泊体験とのディスカッション
- ・阿波おどり演習など
- ・入浴 ・就寝



3. 集落フィールドワーク

地域団体とともに、集落の産業構造の理解、食や文化を守る取組などテーマに沿ってフィールドワークを実施



4. 事後学習

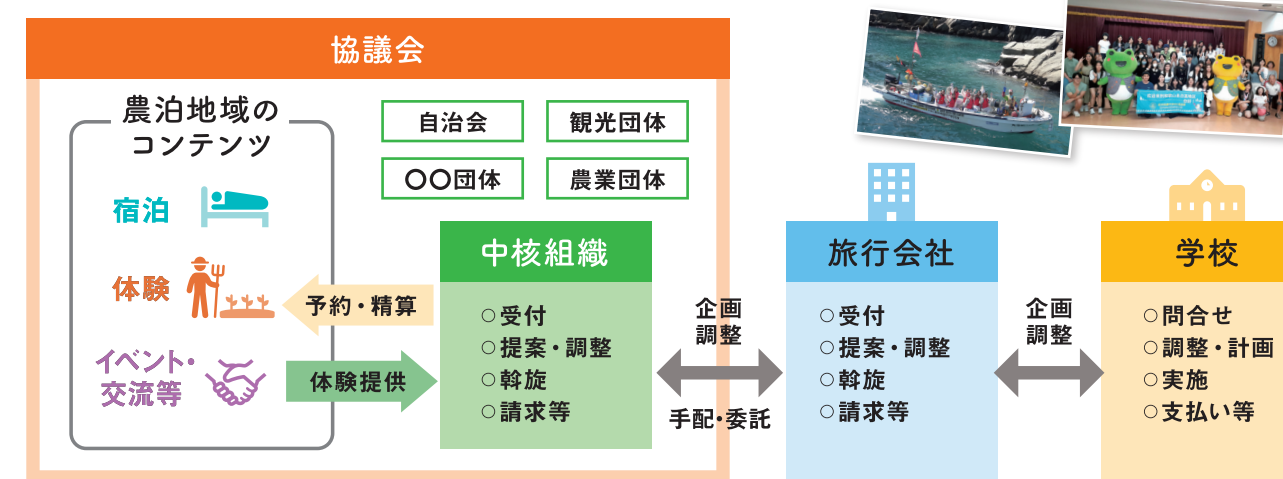
振り返り、まとめ

- 発表会(そらの郷出席)



教育旅行における中核組織の役割

教育旅行に農泊の体験を組み込む場合、学校、旅行会社、そして地域側のコーディネートを行う三つ巴の関係性が重要です。中核組織とは、コーディネートを行ういわばランドオペレーターのような存在です。中核組織は、旅行会社や学校と地域とのつなぎ役を果たします。



農泊は、単なる見学旅行ではなく、子どもたちの心と体を育み、将来を担う人材を育成するための貴重な体験です。自然の中で学び、地域の人々と交流し、多様な価値観に触れることで、子どもたちは大きく成長します。